

発 言 通 告 書

発言者氏名	藤野英明
発言の会議	令和3年11月29日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 「ベイビーロスアウェアネスウィーク～亡くなった赤ちゃんのご家族に想いを寄せる一週間～」が目指すものとその実現のための取組について

(1) 今年実施した「ベイビーロスアウェアネスウィーク」の取組について

ア 「公認されない死」「公認されない悲嘆」とされる亡くなった赤ちゃんと御家族に寄り添い、社会の側の偏見を取り除いていくという目的に照らして、本市の今年度の取組の効果をどのように評価しているか。

イ 引き続き、本市は積極的に発信していくべきではないか。

ウ 「Wave of Light」の1時間は市職員立会いの下でキャンドルをともすことができる特定の場所を設けるべきではないか。

(2) これからの取組について

ア 流産・死産・新生児死亡・人工死産などで赤ちゃんを亡くされる方がおられ、深い悲しみの中にいらっしゃること、人々の無意識の言葉にしばしば傷つけられることなどを記した啓発

のチラシを作成し、市役所をはじめ公共施設や保健・医療関係機関に配架して、日常的に市民の方に手に取っていただけるようにすべきではないか。

イ ひとつの人権課題として捉えて、当事者を講師に招き、生涯学習課による人権セミナーや人権・男女共同参画課による講座や講演会の開催を検討していただけないか。

ウ 来年度もベイビーロスアウェアネスウィークに様々な取組を実施するに当たって

(ア) 当事者以外の多くの市民の方々に御理解いただくために、あらゆる媒体を用いて、本市の取組を積極的に広報すべきではないか。

(イ) 民間企業や学校や医療機関、そして市民の方に趣旨を御理解いただき、建物などにピンクアンドブルーのライトアップやリボンの飾りつけをしていただけるように御協力を呼びかけていただけないか。

(ウ) ティボディエ邸脇にオープンするレストランのお客様にとっても、ベイビーロスアウェアネスウィークのライトアップのために訪れた方々にとっても、共により体験をしていただけるように、早期から担当課間で調整や対応を検討すべきではないか。

2 いわゆるリトルベビー（低出生体重児・極低出生体重児・超低出生体重児など小さく生まれた赤ちゃん）と御家族の支援について

(1) リトルベビーハンドブックについて

ア 長年にわたってリトルベビーに対する取組を行ってきた本市の経験と情報を、神奈川県が来年度作成するリトルベビーハンドブックに反映させられるように、県に対して積極的に意見を伝えていくべきではないか。

イ リトルベビーハンドブックは単に保護者が成長を記入するためのものではなく、保健師をはじめとする行政、医療関係者、保護者が連携しながら成長を共に見守るための大切な冊子で

あるとの認識を本市では徹底して共有すべきではないか。

ウ 本市では、リトルベビーの出生を把握した際に保健師がすぐにNICU（新生児集中治療室）を訪問する取組を実施している。リトルベビーハンドブックはこの最初の訪問時に、保健師から産婦に直接お渡しするようにしていただきたいが、いかがか。

(2) リトルベビーに対する現在の取組の状況について

ア 出産直後及びその後の継続的なケアを含めた、リトルベビーを出産した産婦に対する本市の産後ケアの取組はどのようなものか。

イ 子育てホットラインや子育て支援ヘルパーなど心身の回復に有効な取組の情報は、リトルベビーを出産した産婦の皆さんに必ずお知らせできているのか。

ウ 本市では全てのリトルベビーが市立病児・病後児保育センターを利用できるのか。

エ 本市では全てのリトルベビーが必要な社会資源（保育所、一時預かり事業、子育て短期入所生活援助事業など）を利用できるのか。

オ リトルベビーの御家族は他の当事者との交流や支援団体の情報を切実に求めておられるが、本市では担当課やうわまち病院などで情報提供を行っているか。もし行っていないのであれば、ぜひ情報提供していただきたいが、いかがか。

カ リトルベビーと御家族について社会の側に理解を求める取組を検討していただけないか。

キ 本市発行の冊子「子育てガイド」を読んだ方々に、生まれてくる赤ちゃんの10人に1人がリトルベビーであり、NICUなど医療・福祉的支援は必要なものの特別な存在ではなく、毎日を懸命に生きている存在であることが伝わるような記述をしていただけないか。

ク 本市の子ども政策全般をリトルベビーと御家族の観点から改めてチェックし直していただけないか。